

CLOSE UP

クローズアップ

金城学院高等学校

鬼頭 恵美  
先生

金城学院中学、高校に学び、金城学院大学入学。同大学院文学研究科国文学修了。非常勤講師ののち2000年から金城学院高等学校専任教員に。金城学院中学校でも教鞭を執り、現在は高等学校で国語科を教える。2015年から生徒課長。

# 神様から与えられた言葉と心を大切に 自分が輝ける何かを見つけてほしい

古典文学の奥深さと、美しい日本語を伝えたいとの想いから教職への道を選んだ鬼頭先生。

神様の愛に包まれた学校生活の中で「生徒たちには勉強だけではなく人間としての成長を期待しています」とおっしゃいます。

また「受け継がれてきた心と与えられる言葉を大切に、将来の糧にしてほしい」とも。

生まれ変わっていく学び舎と、ご自身の中にも息づく金城スピリットを感じながら、日々生徒たちの指導にあたられています。

## Ⅰ 古典を通じ感じてもらいたい豊かで美しい日本語の表現

小学4年生のときの担任の先生が万葉集や古今和歌集、百人一首のほか松尾芭蕉の作品などを機会があるたびに教えてくださいました。教科書にはまだ出てこない内容でしたがとても楽しく感じました。その影響で、中学では古典が好きになりました。教師の道を選んだのも、古典の奥深さを伝えたいと思ったからです。

中学から高校、大学、大学院と金城学院に学び、中・高6年間はグリークラブに所属して部長を務めました。当時はメサイアも生徒たちが主体となって作り、部活動は自分たちで行うという主体性を学ぶことができたと思います。部長として指揮を経験させていただいたのもよい思い出です。

部活動など学校生活を通じてできた友人は、今でも会えばすぐにわかり合えます。やはり共通の思い出があるのは安心ですし、職場や生活環境が変わっても心は同じだと感じています。生徒たちにもぜひ、今の友人関係をずっと大切にしてもらいたいと思っています。

授業では古典を担当していますが、生徒たちに古典から学んでほしいのは言葉の美しさです。本や人の

言葉からでも、常に感性のアンテナを張って正しく美しい言葉の一つずつ自分のものにしてほしいと思います。新校舎の完成でメディアライブラリーも広く使いやすくなったので、もっと利用してほしいと思います。また美しく豊かな言葉を学んだら、次はそれを自分の言葉で表現し、伝える機会を作っ

てもらいたいと願っています。

また古典は難しい言葉のように思われがちですが、同じ日本語です。わからないと思って終わりにするのではなく、わかるところから広げていってほしい。言葉そのものにこだわるのではなく、古典の世界そのものを楽しんでももらいたいと思っています。

## Ⅱ 変わらず受け継がれてきた金城生としての心を大切に

学校は勉強だけでなく、心を育てる場所でもあります。生徒たちは毎朝、礼拝で神様から素晴らしいメッセージをもらっています。それはきっと将来、心の糧になるはずですから、大切にしてほしいと思っています。

現在、金城学院は新校舎の建設など環境が変わりつつあります。しかし、金城生の心の中にはいつの時代

も変わらないものがあります。それは神様の存在です。神様に見守られる安心感に包まれて生きることの幸せをこれからも生徒たちに伝えていきたいと考えています。また学校生活を通し、自分が輝ける何かを見つけ、勉強だけではなく人間としてもっと成長してほしいと願っています。

### 鬼頭先生はどんな人!?

管弦楽部や授業を受け持つ3年生に先生の印象を伺いました。「図説やゲームなどを使った授業が楽しい」「古典の世界が広がるお話をしてくださる」と授業のわかりやすさが評判です。授業以外でも「面白い先生で話しかけやすいです」「思いやりあふれる先生」と、朗らかで親しみやすく生徒から慕われるお人柄が窺えました。

